総本山 三井寺（園城寺）

令和六年 大河ドラマ「光る君へ」放映記念

紫式部と三井寺

前期 2024.1.29月 — 2024.7.31水
後期 2024.10.1火 — 2025.1.31金

［時間］8:00 – 17:00 ［場所］本堂 金堂（国宝）
［料金］無料（入山料は必要）

三井寺は、紫式部と縁の深い寺で父 藤原為時をはじめ兄弟、親戚が三井寺の僧侶になっています。総本山三井寺では、令和六年大河ドラマ「光る君へ」放映を記念し三井寺所蔵の紫式部に関連する品などを初公開いたします。

展示品

- 寺門伝法灌頂血脈
- 源氏物語潤月抄
- 和本［大宝百人一首紅葉錦］
- 観世流大成版 謡本 源氏供養
- 小倉百人一首

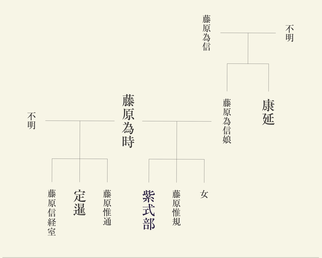
紫式部と三井寺

三井寺は、紫式部にとって仏縁の深い寺でした。

彼女の父親の為時は、晩年を迎えて三井寺で出家したことが伝えられています。親戚のなかにも三井寺の僧となった人がいます。母親の兄弟だった康延は、宮中の仏事や天皇の安穏を祈る内供奉十禅師に任命されていました。また、彼女の異母兄弟の定暹も寛弘二年（一〇〇五）ころに三井寺で密教の伝授を受け、阿闍梨となって一条天皇の生母・藤原詮子の追善法要や一条天皇の大葬の御前僧の一人として参列しています。

『紫式部日記』には、寛弘五（一〇〇八）年に藤原道長の長女で一条天皇の中宮彰子が出産のため、道長の邸宅に里下りしたときの出来事が記されています。壮大な寝殿造りの庭園は秋の気配に包まれ、もののあわれを感じさせる雰囲気です。邸内では安産を祈って怨怒の五大明王が安置され、三井寺の勝算、心誉、斎祇といった有験の僧によって密教修法が行われており、護摩壇からは赤々と炎が燃え盛っています。祈祷に苦しむ物怪のののしる声が響き渡り、彼女も「いみじう、こはきなりけり」と記しています。自然の威力に対し神仏の救済を求めた当時の人々の祈りの深さが伝わってくる印象的な一節です。

紫式部と三井寺の仏縁



藤原為時［紫式部の父］
長和5年（1016年）4月29日に三井寺にて出家。
三十六歌仙の一人で「小倉百人一首」にも採録された
藤原兼輔を祖父に、「後撰和歌集」などに採録された
藤原雅正を父に生まれ、自身も和漢どちらにも秀でた人であった。

定暹［紫式部の異母兄弟］
三井寺の阿闍梨*
東三条院追善供養の法華八講に延暦寺の僧として出仕、
一条帝の大葬の行列の中にも選ばれている。
園城寺寺伝血脈には三井寺18代長更付法7人の
一人として記載されている。

康延［紫式部の叔父］
三井寺の阿闍梨*
宮中の仏事や天皇の安穏を祈る
内供奉十禅師に任命されている。

伝法灌頂血脈譜
三井寺の宗教 智証大師円珍から続く
伝法灌頂の職位を受けた阿闍梨の系図

*阿闍梨（あじゃり）：密教で修行を完了し伝法灌頂の職位を与けた僧。また弟子たちの模範となる高僧の敬称。